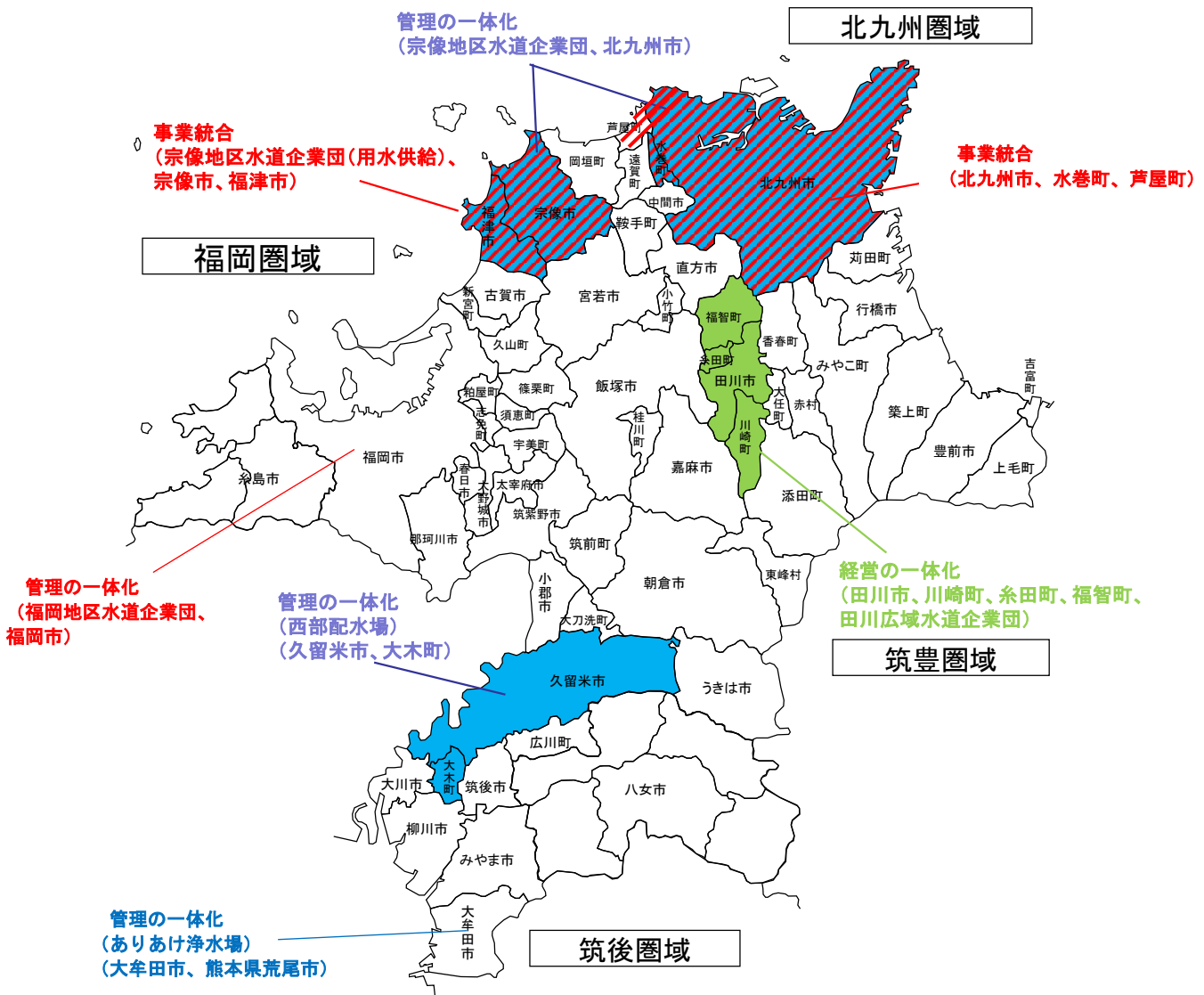


○本県の広域連携の主な取組事例

本県ではこれまで、様々な広域連携の取組が進められてきました。

北九州圏域では、すでに一部で事業統合が実施されています。また、筑豊圏域では、田川広域水道企業団(用水供給)と構成団体が、令和5年度に事業統合を予定しています。加えて、施設の共同設置・共同利用や管理の一体化についても、県内に実施事例があります。

広域化実施団体の位置図



<主な事業統合取組事例>

- ・北九州市
平成 19 年度に芦屋町、平成 24 年度に水巻町と北九州市が水平統合を行っている。
- ・宗像地区事務組合
平成 22 年度に宗像地区水道企業団（用水供給）と宗像市、福津市が垂直統合を行っている

<主な施設の共同設置・共同利用及び管理の一体化取組事例>

- ・宗像地区事務組合と北九州市
平成 26 年度に包括業務委託に関する基本協定を締結し、平成 28 年度より北九州市が宗像地区事務組合の水道管理に関する技術上の業務を行っている。
- ・福岡地区水道企業団と福岡市
平成 14 年度に管理協定を締結し、福岡市が、福岡地区水道企業団との共同施設である多々良川共同取水に関する施設の管理業務を行っている。
- ・久留米市と大木町
西部配水場を共同で建設し、その維持管理は大木町が久留米市に委託している。
- ・大牟田市と熊本県荒尾市
ありあけ浄水場を共同で建設し、その維持管理業務についても共同で民間委託している。

○田川地域における広域連携の取組

田川地域において、田川地区水道企業団とその構成団体である、田川市、川崎町、糸田町及び福智町が、平成 31 年 4 月 1 日に経営の一体化を行い、令和 5 年 4 月 1 日を目標に事業統合の実現を目指しています。この取組により、主要施設数が減少する等の効率的な水道事業の運用が期待されます。

<事業統合による主要施設数の変化>

取水場が 14 か所→5 か所、浄水場 10 か所→2 か所に減少。

<田川地域広域連携の流れ>

